

施策評価調書

1 施策の概要

(1)	施策名	教育内容の充実／国際化・情報化社会に対応した教育の展開					
(2)	総合計画の体系	第 4 章	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり				
		第 1 節	学ぶ意欲と主体性を育てるまちづくり				
		第 16 細節	教育内容の充実／国際化・情報化社会に対応した教育の展開				
(3)	事業費など (単位:千円)	項目\年度(平成)		26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額	
		事業費(A)		44,393	52,077	60,821	
		従事職員数		2.72 人	2.90 人	2.40 人	
		所要人件費(B)		21,618	24,222	19,608	
		総事業費(A+B)		66,011	76,299	80,429	
		財源内訳	収入	国庫支出金	0	0	0
				府支出金	0	0	0
				その他	47	0	111
			市負担	地方債	0	0	0
				その他	0	0	0
一般財源	65,964			76,299	80,318		

2 評価の指標(施策に係る成果指標)

指標項目		項目\年度(平成)	26年度実績	27年度実績	28年度計画
指標内容	日本語適応指導教室平均利用率	目標値 (単位:%)	100.00	100.00	100.00
		実績値 (単位:%)	73.00	65.00	/
目標値の積算方法	1回あたりの平均利用者数／登録者数	達成度(%)	73.0	65.0	
指標内容	「すいたえいごキッズ」当日アンケート結果での肯定的感想(満足度)	目標値 (単位:人)	480.00	538.00	538.00
		実績値 (単位:人)	480.00	538.00	/
目標値の積算方法	アンケート回答数のうち、肯定的な感想を持った人数	達成度(%)	100.0	100.0	

3 施策の点検(施策を進めるうえでの課題)

小学校の外国語活動が教育課程に正式に組み込まれ、また今後小学校において英語が正式な教科になることを考えると、小学校での英語指導助手の必要性はますます高くなっていく状況である。今後、グローバル社会に生きていくためのコミュニケーション能力を身につけ、将来世界で活躍できる人材の育成を図ることが重要である。

4 施策の評価

次年度の優先順位	施策を構成する事務事業名	室課名	事業番号	市単独事業区分	施策への貢献度	各視点からの評価 (20 → 4) 高 → 低						今後の方向性 (実施計画)
						妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	合計	
1	英語教育推進事業	指導室	00885	全部	大	20	18	20	20	12	90	拡充
2	英語コミュニケーション体験事業	指導室	00886	全部	大	20	20	20	18	16	94	継続
3	通訳者派遣事業	指導室	00890	全部	大	16	14	16	18	18	82	継続
4	日本語適応教室事業	指導室	00891	全部	大	14	18	18	14	16	80	継続
5											0	
6											0	
7											0	
8											0	
9											0	
10											0	
11											0	
12											0	
13											0	
14											0	
優先順位をつけるにあたっての考え方		施策への貢献度の高いものから優先順位をつけた。英語教育を推進し、グローバル社会におけるコミュニケーション能力の育成と向上を図ることが重要である。										